

平成元年度農林災害の概要

Review of Agricultural and Forest Disasters in 1989

北海道大学農学部

町村 尚・堀口 郁夫・原田 和典

Dept. of Agricultural Engineering, Hokkaido University

Takashi MACHIMURA, Ikuo HORIGUCHI and Kazunori HARADA

Abstract

In 1989, Hokkaido had two serious disasters for agricultural and forestal products. One of them was frost damage that suffered the crops over large region from June 9 to 11. And another was flood damage that occurred in the Pacific coastal regions from June 28 to 30. Besides them, there was some small damage caused by flood, hail and high temperature in 1989.

キーワード：1989年6月の北日本霜害, 1989年6月の北海道太平洋沿岸水害

平成元年度に北海道内で発生した主な農林災害は、6月9日から11日に発生した大規模な霜害と、6月28日から30日の太平洋沿岸各地の水害である。この他、道南、道央で小規模の水害が、北見地方でひょう害が発生している。また夏季は高温が続き、家畜などに被害がでた。

1. 6月9日から11日の霜害

6月8日から11日にかけて、北海道付近はオホーツク海北部に中心をもつ高気圧に覆われた。この高気圧から冷たい北東風がはいり込み、また夜間の放射冷却も強く、明け方には各地で氷点下の気温を記録した。このため9日から11日にかけて3日連続して、十勝、網走、後志、上川、

空知、胆振の6支庁で被害面積57,000haにのぼる晩霜害が発生した。被害を受けた作物はバレイショ（被害面積30,000ha）、デントコーン（同12,200ha）、小豆、菜豆、スイートコーン、大豆などである。豆類を中心に3,000haの圃場で、播きなおしなどの対策が必要となった。しかし7月から8月にかけて好天が続いたことにより生育が回復し、菜豆などを除いて平年並みの収量となった。この霜害では北海道外でも青森県、岩手県などで葉タバコ、デントコーン、果樹、桑などに大きな被害がでた。

2. 6月28日から30日の水害

6月28日から30日にかけて道南地方および東北地方を通過した2つ玉の低気圧によって、北海道の太平洋沿岸各地は大雨にみまわれた。降り始めからの雨量は登別、音別、白老、豊頃など各地で200mmをこえた。この大雨のため、池田町で1,850haの農地が冠水するなど、十勝地方では2,500haの農地が冠水、流失した。被害を受けた作物は豆類、牧草、小麦、バレイショなどである。

3. その他の農林災害

7月21日の北海道は太平洋高気圧に覆われ、各地で真夏日となった。日最高気温32.5℃を記録した北見地方では積乱雲が発達し、午後3時30分ごろから約30分間、激しい雷雨となった。北見市西相生地区ではこの間約10分間にわたり、直径1cm程度のひょうが降った。このためタマネギ、水稻、小麦など231haに被害が生じた。

7月下旬から8月上旬にかけて北海道は北寄りに位置をかえた太平洋高気圧に覆われ、太平洋岸を除き好天、高温が続いた。旭川では、10日連続の真夏日を記録した。この猛暑で乳牛、肉牛、豚、鶏など、家畜の死傷が続出した。降水量も少なく、特に道南では7月の月降水量が函館9mm、江差12mm、寿都12mmと平年の約10%であった。このため、畑作物や野菜がしおれる被害がでた。

8月13日から14日にかけて前線を伴った低気圧が北海道南岸を通過し、道南地方を中心に所により200mmをこす大雨となった。今金、北檜山、瀬棚、奥尻で水稻、バレイショなど225haが冠水した。また9月2日から4日にかけて北海道の日本海岸を北上した低気圧によって、道南、道央地方は各地で100mmをこす大雨となった。石狩、空知支庁内の6市町で水稻、小豆、バレイショなどに56haの冠水被害、1,009haの浸水被害がでた。